平成29(2017)年
9月1日
第196号 毎月発行
編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

２面…女性のための講座、子育て中の女性のための講座、乳幼児をもつ母親のための講座、社会教育を考える講座、健康講座、教養講座
３面…雇用・労働問題講座、防災講座、中高年対象講座

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

マンホールのふたの裏側に
～NT・C（ニシトーキョー・シティ） マンホール・ウォッチング2～

公民館だより7月1日号では、西東京市で見ることができるさまざまな図柄のマンホールのふたを紹介し、まち歩きを提案しました。みなさんは、どんなマンホールのふたを発見したでしょうか。
今回は、ふたの先にあるしくみに注目してみました。

©撮影：白汚（しらお） 零（れい）（提供：小平市ふれあい下水道館）

分流式と合流式

西東京市が設置しているのは、下水道のマンホールです。注意してみると、そのふたには、「おすい」や「うすい」と書かれています。これは、西東京市が分流式下水道を採用していることを示しています。分流式下水道とは、汚水（おすい）（家庭や工場で使った汚れた水）と雨水（うすい）（雨の水）を別々の下水道管で流し、汚水のみを処理する下水道方式のことです。この方式では、雨水はそのまま川に流されます。これに対し、汚水と雨水を合流させて処理する下水道方式のことを合流式下水道といいますが、下水処理施設の能力を超える量の雨が降ると、汚水と雨水の混ざった未処理の下水があふれ出て、川にそのまま流れてしまうことがあります。下水道の導入が早かった区部では、合流式のマンホールが多くみられます。

市内の汚水は、清瀬市にある「清瀬水再生センター」へと流れていきます。そこできれいな水にする処理をされ、最終的には柳瀬（やなせ）川へと放流されます。

汚水の道のり

下水道にかかわる施設は、大きく三つに分けることができます。

一つ目が、下水道管です。汚水と雨水の通り道で、市内を葉脈のようにめぐっています。各家庭のトイレやお風呂は、いわば汚水の道の出発点。その道中は、地下に埋もれて普段は見ることができません。地上から確認できるマンホールのふたは、その表面の一部分、下水の道の通過点なのです。

二つ目が、ポンプ場です。自然に流れるように高低差をつけて敷設された汚水管が地中深くなりすぎないように、途中で汲み上げるための施設です。市内では、下保谷と東町の２つのポンプ場がありましたが、下水道管の整備が進み、現在は廃止されています。各家庭から出る汚水は汚水管を通って、処理場へと流れていきます。

三つ目が、水再生センターです。水再生センターでは、汚水の処理をする施設と、処理によって発生した汚泥（おでい）（汚水から取り出した汚れ）の処理をする施設に大別されます。水再生センターに流れ着いた汚水は、汚れの沈殿、微生物による分解、塩素による消毒と、いくつもの過程を経てきれいにされ、川に流されます。汚水から分離された汚泥は、濃縮、脱水、焼却といった過程で処理されます。清瀬水再生センターには、汚泥から可燃性のガスを取り出すことのできる「ガス化炉」があるのが特徴です。取り出したガスを燃やすことによって発電を行い、設備の運転に利用しています。

雨水の行き場

大雨が降ったとき、冠水した道路を見たことはありますか。街が都市化し、道路や土地がコンクリートやアスファルトに覆われると、その土地は雨水を蓄える能力を失うことになります。そうして行き場をなくした雨水が、道路の冠水といった事態を招いているのです。

市では、一時的に雨水をためる貯留管や貯留槽、浸透ますといった設備の設置をすすめています。また、個人宅への雨水浸透施設の設置費用の一部助成も行っています。住宅の屋根に降った雨を地下に浸透させることによって、雨水が下水道や河川に流れ出ることを抑制できます。

私たちにできること

下水道環境をよくするために個人が配慮できることのひとつに、台所で油をそのまま流さないことが挙げられます。油を流してしまうと下水道管の中で冷えて固まり、詰まりや悪臭の原因となります。鍋や食器についた油汚れは拭き取る、残った油は固めて可燃ゴミとして捨てるなど、ひとりひとりの小さな配慮の積み重ねが、私たちの安全で快適な生活を支える下水道施設を守ることにつながります。

下水の道のりをたどってみると、改めてその出発点は私たちの生活そのものであることに気づきます。一枚のマンホールのふたの裏側に、市内のみんなの暮らしを支えるしくみがあるのです。

写真で見る いまむかし
東京教育大学運動場（現文理台公園）

東町一丁目にあった東京教育大学付属農場・運動場の跡地は、現在、文理台公園などになっています。

化粧品会社の資生堂の野球場だったところに東京文理科大学・東京高等師範学校（昭和24年の学制改革により東京教育大学となる）の付属農場と運動場できたのは、昭和11～12年ごろのことです。

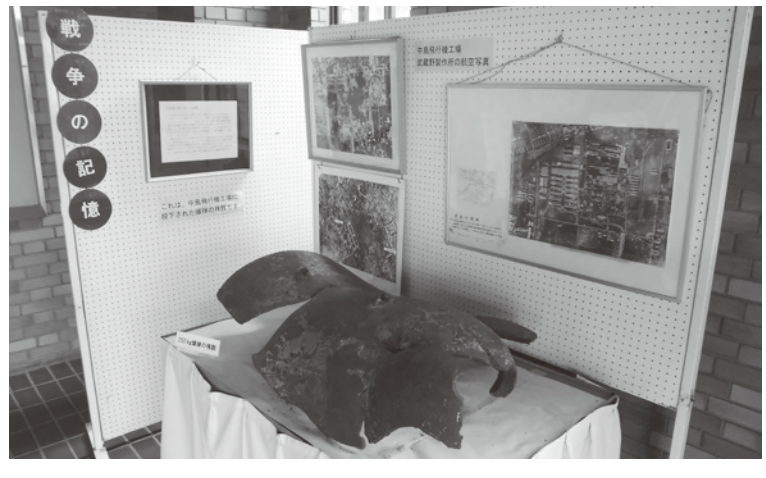
文理台公園は昭和59年4月に開園しましたが、園内の桜や梅の木は、付属農場の実習で種から育てたものだそうです。

東京教育大学運動場（撮影年不詳）
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

文理台公園プレイロット
撮影：牟田信幸（栄町在住）

柳沢公民館入り口に「爆弾の破片」展示コーナーを設けました

30年ほど前から柳沢公民館入り口にある「爆弾の破片」の展示をリニューアルしました。

展示物はアジア太平洋戦争中に米軍によって投下された250キロ爆弾の破片で、保谷庁舎北側を流れる新川の改修工事の際に発見されました。

旧田無町・旧保谷町への空襲については、「西東京市公民館だより」第195号（平成29年８月１日発行）１面特集をご覧ください。